

# フィンランド教育文化交流団



長本 浩嗣  
教育文化研究所 事務局長

何かと話題の PISA 調査で一躍注目を集めた「森と湖の国 フィンランド」へ、胸を弾ませたゴールデン・ウィーク。10時間のフライトのほとんどをロシア上空で過ごし、ヘルシンキに到着した。

ロシアを挟んで隣国となる日本とフィンランドの教育制度には、根本的に大きな違いがある。「知識重視の伝統的教育」と「態度重視の子ども中心主義」を振り子のように行き来する日本に対し、常に「子どもの最善の利益」を考えた前向きな改善がおこなわれ、現代の教育立国を実現したのがフィンランドである。日本には日本の良さがあり、すべてを真似る必要はないが、可能なところは積極的に取り入れていければと思う。



今回の訪問させていただいたのは、ヘルシンキ近郊のエスプー市にある「支援教育」スタリ学校。「支援教育」に力を入れた、フィンランドの中でも先進的な取り組みを試みている学校だった。一番の特長は、支援学級と普通学級が隣り合わせに行き来できるドアが設置されているが、その大きさが

子どもたちに一体感を生み出していることだ。授業では、子ども一人ひとりの発想や着眼が大切にされ、教職員はその支援者となって

フィンランドでは当然のこととなるだろうが、また、高学年になるほどグループ学習が多く取り入れられ、子どもたちは教え合い、助け合っている。福祉国家の思想が根付き、平等と共存の思想が国民的合意となっている。

合いながら学んでいた。給食はバイキング方式で、授業をしている他学年があるにも関わらず、ランチスペースでは、楽しそうに食事をする子どもたちの笑顔に出会った。言葉や文字には表現しにくい、のびのびとした空気を肌で感じた。そして、職員室には聞いていたが、本当に教職員の机はなかく、ソファやカーヒーターがあるだ

**ご存知ですか？**  
**新採用組員 110 番**  
お困りのことがあればお電話ください。  
**078-252-0110**

# 第82回兵庫県メーデー



5月1日(日)、神戸・湊川公園に集合した兵教組からの約200人を含む1万人(主催者発表)の参加者は、神戸大倉山公園の第82回兵庫県メーデー神戸中央大会会場をめざした。

「がんばろうニッポン!」すべての働くものの連帯で、働くことを軸とする安心社会と自由で平和な世界をつくらう!」をスローガ

「がんばろうニッポン!」すべての働くものの連帯で、働くことを軸とする安心社会と自由で平和な世界をつくらう!」をスローガ

「がんばろうニッポン!」すべての働くものの連帯で、働くことを軸とする安心社会と自由で平和な世界をつくらう!」をスローガ

「たけのこ」  
南あわじ市灘小学校六年 増井 鈴菜

# 教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8  
兵庫県教職員組合  
発行人 山名 幸一  
編集人 泉 雄一郎  
電話 050(3538)2346  
1部7円 年定価280円  
(組合員の購読料は組合費の中に含む)  
**2011/5・15**  
**No. 1789**  
2面  
・東日本大震災 被災地支援報告  
震災・学校支援チーム EARTH より

**えっ 終身の生命保障って、若いうちに入っておいたほうがお得なの？**

**教職員共済生協の 新・終身共済** は、**そうなんです!**

**1. 保障が一生ずっと続きます**

基本契約 **300万円**ご契約の場合(死亡または高度障害となったときお支払いします)

ご契約(30歳の場合)

たとえば 女性30歳の場合 月掛金 **5,190円** → 60歳までの払込掛金総額 **1,868,400円**

男性30歳の場合 月掛金 **5,400円** → 60歳までの払込掛金総額 **1,944,000円**

**2. 入ったときの掛金のまま変わりません**

基本契約、定期生命特約とも掛金の払込みは60歳までとなります。

**3. 解約したときは 解約返戻金 が!**

性別	30年後に解約の場合(60歳)	40年後に解約の場合(70歳)	50年後に解約の場合(80歳)
女性	解約返戻金 <b>2,037,270円</b>	解約返戻金 <b>2,326,020円</b>	解約返戻金 <b>2,602,860円</b>
男性	解約返戻金 <b>2,110,230円</b>	解約返戻金 <b>2,387,220円</b>	解約返戻金 <b>2,639,910円</b>

上記の条件で契約されていた方が解約された場合

入院、手術などにも備えたい方は「医療共済」がおすすめです。合わせてご契約いただくとより安心です。

まずは資料請求してみませんか!

教職員共済生活協同組合 兵庫県事業所 神戸市中央区中山手通4-10-8 TEL:078-221-9730 承10-企-58(1102)

# 子どもたちの心の傷が、一日でも早く癒えることを願う

東日本大震災から2ヵ月。警視庁のまとめ(5月11日現在)によると、今なお約12万人が避難生活をいられており、行方不明者は全国で計9,853人、死者は14,981人になる。復旧・復興への人手不足が懸念され、長期的な支援が必要だ。ライフラインの復旧は遅れており、完成した仮設住宅は目標の1割に満たない。しかし、岩手、宮城、福島県の教育委員会によると、福島では原発事故の影響から26校の再開が遅れている。岩手、宮城では、公立の小・中・高校はすべて再開しており、子どもたちの笑顔が大人を元気にしている。

私たちはこれまで、緊急支援カンパ12,065,822円(5月9日現在)、被災地高校への辞書計504冊を送付した。また、震災・学校支援チームEARTH(以下アース)、連合「被災地支援ボランティア活動」(近畿ブロック)の1員として、仲間が被災地へ支援に入っている。今後、彼らからの報告を順次紹介していく。

## 震災・学校支援チーム EARTH 第2次派遣より



見澤 光徳 B-1班 西宮支部

3月21日 食料、ガソリン、救援物資を満載し宮城県庁へ。原発の影響驚くほど長蛇の列。ガソリンを強く感じる。

22日 仙台市内は思ったより平静。営業中の店舗には、驚くほど長蛇の列。ガソリン料の供給不足を感じた。



黒板に書かれた避難者の一覧。(3月24日、岩沼市立玉浦小にて)

黒板に書かれた避難者の一覧。(3月24日、岩沼市立玉浦小にて)

授業中に本震が発生。津波は学校まで到達せず、幸い児童・教職員の犠牲者はいない。しかし、保護者の安否は確認できておらず、教職員には自宅を流された方が数名いる。震災数日後



焼失した鹿折唐桑地区。(3月23日)

宮城県教委と打ち合わせを考慮し新潟から山形へ抜ける。宮城手前で最後に給油できたのは千円分。燃料の供給不足を感じた。

宮城県教委と打ち合わせを考慮し新潟から山形へ抜ける。宮城手前で最後に給油できたのは千円分。燃料の供給不足を感じた。

3月23日、鹿折中学校 降りしきるみぞれの中、焼失した鹿折唐桑地区を見下ろす高台にある鹿折中へ。翌日に卒業式を控えた職員室は慌ただしく、当初校長は怪訝顔だった。アースの説明をするうちご理解いただけただのか、2時間以上も意見交換した。



避難区域の看板

500人以上の避難者の内、在校生は50人。自衛隊が常駐し、避難者の自治組織とともに炊き出しを行っている。水や電気の復旧はないが、食事には困らないらしい。卒業目前の3年生に安否不明者が1名、保護者の安否不明者は10名以上いる。学校再開は5月以降になるのではとの考えだが、まずは翌日の卒業式で生徒を送り出さないことに再開の方向性を考えられたいと心を話してくれた。

23日、鹿折中学校 降りしきるみぞれの中、焼失した鹿折唐桑地区を見下ろす高台にある鹿折中へ。翌日に卒業式を控えた職員室は慌ただしく、当初校長は怪訝顔だった。アースの説明をするうちご理解いただけただのか、2時間以上も意見交換した。



浜市地区の学校前には、津波で流された船や車が残り、人影はまるでなかった。(3月22日、東松島市にて)

24日、岩沼市・玉浦小学校 開にはためらいが大きい。内、在校生は50人。自衛隊が常駐し、避難者の自治組織とともに炊き出しを行っている。水や電気の復旧はないが、食事には困らないらしい。卒業目前の3年生に安否不明者が1名、保護者の安否不明者は10名以上いる。学校再開は5月以降になるのではとの考えだが、まずは翌日の卒業式で生徒を送り出さないことに再開の方向性を考えられたいと心を話してくれた。

22日、東松島市矢本東小学校 宮城県教委と打ち合わせを考慮し新潟から山形へ抜ける。宮城手前で最後に給油できたのは千円分。燃料の供給不足を感じた。



瀧ノ内 秀都 B-2班 芦屋支部

23日、矢本第1中学校、矢本第2中学校 翌日が全校登校日で、卒業式を控えていた。教頭と今後のとりくみを話し、矢本第2中へ。校舎1階は潰れグラウンドは液状化しているが、学校再開に向け少しずつ動きつつある。集まれる生徒だけでも集めることから、学校の早期再開への道のりが出来ることなどを伝えた。

野蒜小学校 校区は浜辺に近く、多くの遺体が上がっている。子どももその様子を見ており、教員は子どもを学年

24日、赤井小学校、赤井南小学校 赤井小にて起床。顔が凍るような空気の冷たさ。職員朝会で今後の学校運営について打ち合わせた。校長は行方不明者捜索のため不在。教頭より、「もつと先を見据えて話を伺いたい」との要望があり、アースハンドブックなどを用い、阪神・淡路大震災当時の宮川小の様子を伝え、一連の学校再開に向けての話を聞いた。

野蒜小学校 校区は浜辺に近く、多くの遺体が上がっている。子どももその様子を見ており、教員は子どもを学年

## 「日常」を取り戻し、子どもたちを元気に



赤井小、職員室での朝食。(3月24日)

自身も被災者として、被災当初は避難所運営で自分自身が分からない状況にある。しかし、一刻も早い学校再開に向けて動きだして欲しい。教員が「先生の仕事」を出来ること、子どもたちのケアにもつながる。また、休める時は休み、「日常」に戻ることに元の気持ちに戻り心のケアにつながる。

野蒜小学校 校区は浜辺に近く、多くの遺体が上がっている。子どももその様子を見ており、教員は子どもを学年